

医学部との国際交流準協定校の紹介

チェンマイ大学医学部 (タイ)

(Chiang Mai University)

交流開始：2006年8月～ 主管学部：医学部



チェンマイ大学病院

大学内の学生施設

ドイ・ステープ寺院

国際交流の特色(大学紹介)

チェンマイ大学はチェンマイ旧市街の北西部に隣接した3,490エーカー(約14.12km²)の敷地に、3つのキャンパスがある。現在、17の学部と3つの研究所を持ち、2,165人の教員に対して、2万人以上の学部生と、約7,500人の大学院生が学んでいる。1964年に設立されたチェンマイ大学医学部は、北タイ地域の医療・福祉と医学研究の中心機関となっている。チェンマイ大学医学部は日本と同じ6年制であり、1学年は160-180名からなっており、約1000名の学生が医学を勉強している。

香川大学は、チェンマイ大学を東南アジアの教育・研究拠点と定め、今後複数の学部において、教育・研究面での国際交流事業を展開する方針を立て、医学部も2006年より交流を開始した。2010年8月には第3回目の合同シンポジウムをチェンマイ大学で開催した。またチェンマイ在留邦人に対する遠隔健康相談も開始した。

交流実績(平成20年度～22年度)

年度 受入・派遣	平成20 年度	平成21 年度	平成22 年度
学部生・大学院 生派遣・受入	1	3	4
教員派遣・受入	6	9	11



派遣医学生の修了証書授与

神経科での実習風景

教員からの声

チェンマイ市は古い歴史と伝統・文化を有するタイ第二の都市であり、タイ北部の中核都市であるとともに近隣諸国・地域とを結ぶゲートウェイでもあります。街の中は車やバイク、自転車が所狭しと行き交い、大変なエネルギーを感じます。国民のほとんどは仏教徒で、人々は大変礼儀正しく敬虔です。

医学のレベルも高く、先進的な医療を積極的に取り入れ、北タイの医療の中心となっているとともに、近隣諸国へも医療サポートを行っています。香川大学医学部とも今後、周辺地域・近隣諸国を含めた交流の拠点としてチェンマイ大学医学部と交流を進めていく予定です。

医学生は大変勤勉です。向上心が強く、目を輝かせて毎日長時間の講義を聴き実習しています。その姿勢はとても爽やかに感じます。親目的で、日本への憧れも強く、良いパートナーとなることができます。

学部学生の派遣および受入事業も始まりました。研究者交流も進んでいます。ますます交流が盛んになっていくことでしょう。

(医学部教授) 徳田雅明

学生からの声

留学で感じたことは、①自分のしたいことを先方に伝えれば、様々な体験をさせてもらえる。②現地の学生との交流、タイの文化を身近で体験できる。③英語でのコミュニケーション能力の向上が期待できる。④医学、語学共に研修前後に渡って学習意欲が亢進する。⑤タイは親目的で国民性はとても皆親切である。ということでした。

今回、このように大変貴重な経験をさせていただき大変有難うございました。大学単位で他国の大学と交流を進めている大学はめずらしく、香川大学で学んでいることを改めて幸せに感じています。

今回の留学を通じて、英語を通じて医学の知識を深めることがいかに世界を広げるかということに改めて感じることができました。

また日本だけでなく世界の文化や常識と触れることで発想の幅が大きく膨らむことも感じました。

この経験を糧により幅広い視野を持つ医療人となれるよう努力したいと思います。

(医学科4年) 大熊康央、林 千晴

チェンマイ大学

(Chiang Mai University)

ホームページ <http://www.cmu.ac.th/cmueing/index.php>

●学部学生 1,180人 ●医学部教職員 450人
●大学院生(医学部) 180人 ●留学生(全学) 430人

チェンマイ大学医学部 協定校との国際交流事業の概要

横井 英人、徳田 雅明

はじめに

2007年に香川大学は、チェンマイ大学を東南アジアの教育・研究拠点と定め、今後複数の学部において、教育・研究面での国際交流事業を展開する方針を立てた。香川大学医学部も2006年8月に香川大学医学部の代表団がチェンマイ大学を訪問しチェンマイ大学医学部との交流が始まった。

1964年に設立されたチェンマイ大学医学部は、北タイ地域の医療・福祉と医学研究の中心機関となっている。チェンマイ大学医学部は日本と同じ6年制であり、1学年は160-180名からなっており、約1200名の学生が医学を勉強している。

平成22年度のチェンマイ大学医学部との交流実績

- 1) 平成22年8月2日～20日に、医学部4年次生2名(大熊康央君、林千晴さん)が、チェンマイ大学医学部附属病院 Northern Neuroscience Center において臨床実習を行った。
- 2) 第3回香川大学・チェンマイ大学合同シンポジウムが、平成22年8月24日から26日の3日間、チェンマイ大学にて行われ、医学部医学科から6名が参加した。
- 3) 平成22年11月20日に、徳田委員長がチェンマイロングステイライフの会(CLL)との間で健康相談を行った。またCCLの会議において同事業の説明を行った。また平成22年12月4日に、CCLとSkypeを用いた遠隔健康相談を開始した。
- 4) 平成23年1月24日～2月10日に、チェンマイ大学医学部5年次生2名(Miss Kwanchanok RiyapanとMr. Itthiphath Thamaneewan)が臨床研修に香川大学医学部を訪問した。
- 5) 平成23年2月1日～3月19日にわたり、チェンマイ大学医学部生理学講師のMs. Juntima Pleumsamranが、また、2月12日～3月10日にわたり、同じく生理学講師のMs. Sumittra Gomonchareonsiriが共同研究に訪れた。

今後の交流の課題

医学部および附属病院全体での交流事業として進めていく。

- 1) 実施細則(MoU)の締結を行う。
- 2) 学生派遣を定着する。
- 3) 共同研究についてより発展させる。
- 4) 遠隔健康相談を定着させる。
- 5) 診療面で医師や看護師の交流を進める。

チェンマイ大学医学部留学報告書

医学部医学科 4 年次 大熊康央
林 千晴

1. 留学先：チェンマイ大学医学部神経内科 Northern Neuroscience Center
2. 留学期間： 2010.7.30～2010.8.22
3. 日程表：
以下のとおり実習が行われた。

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday	Sunday
				7 月 30 日	7 月 31 日	8 月 1 日
				Arrival in chiang-mai	Holiday Sightseeing	Holiday Sightseeing
2	3	4	5	6	7	8
-Stroke unit Round EMG -Dr. Siwaporn's Clinic	Stroke unit Round OPD Neuro IPD Neuro	Stroke unit Round -OPD Neuro (Dementia) -IPD round -Dr. Siwaporn's clinic	Stroke unit Round -X-ray conference	Stroke unit Round -Neurology for nonneurologist	Holiday Hill tribe village	Holiday Hill tribe village
9	10	11	12	13	14	15
-Stroke unit Round EMG -Dr. Siwaporn's clinic	Stroke unit Round -IPD round -OPD Neuro	Stroke unit Round OPD MS Multiple sclerosis IPD round -Dr. Siwaporn's clinic	Holiday Doi sthep Few tribe village	Holiday Shopping Party with nursing student	Holiday Shopping	Holiday Walking street

16	17	18	19	20	21	
-Stroke unit Round	Stroke unit	Stroke unit Round	Stroke unit Round	-Present outcome	Holiday	
EMG	Round	-OPD Neuro	-Neurosurgery	-International conference		
-Dr. Siwaporn's clinic	-IPD round	(Myasthenia gravis)	-IPD round		Fly to Japan	
	-OPD Neuro		X-ray conference			
		-IPD round – Dr. Siwaporn's clinic				

4. 内容

(ア)神経内科病院実習 (Northern Neuroscience Center)

- ① 脳卒中専用病棟stroke unitでの入院患者の回診
- ② レジデントによる症例報告会議同席
- ③ 4年生と合同での外来患者の間診、神経所見検査
- ④ 症例発表会聴講
- ⑤ Dr. Siwaporn's clinic 外来での間診、神経所見検査



4年生との予診



stroke unitのみなさんと

(イ)その他の活動

- ① ミャンマー国境付近の無医村での医療ボランティア診察ブース見学
- ② 山岳民族の散髪、患者の順序整理
- ③ 現地学生 (International Medical Student Unit) との交流

④ 日本人留学生との交流（日本医科大学、順天堂大学、琉球大学）



無医村での散髪活動



琉球大学、日本医科大学の学生との交流

5. 現地での生活

留学中はチェンマイ大学医学部の学生寮に宿泊させてもらいました。ちょうど雨季ということもあり、ときおり激しいスコールに見舞われましたが、寮から大学まで約2キロの道のりはほとんど屋根付きの歩道が整備されています。寮や大学周辺はコンビニやスーパー、お洒落なcaféまであり便利で、治安もよく安心して生活することができました。普段の身の回りの世話はチェンマイ大学医学部の学生がしてくれ、ほぼ毎日食事や休日のレジャー等に連れて行ってもらいました。



山岳民族の村にて



ウォーキングストリートにて

6. 今後留学を希望する人へ

太熊康央

(ア)病院実習に足りる医学知識を

チェンマイ大学ではほとんどすべてが病院内での実習です。そのため実習を行う科の専門知識を深めておくことが大切です。実際、問診から神経所見の検査、学生同士のディスカッションから診断に至るまでをさせてもらいましたが、それらは基本的な知識がなければできません。私は神経内科領域について統合講義で一通り学んだつもりでいましたが、忘れていた知識も多くあり、留学前にCBT問題集やSTEPといった参考書で知識を確認し、またOSCE対策の本で神経所見の診察方法を脳神経外科の河井先生ご指導のもと事前に学んでいきました。

(イ) 医学英語の大切さ

タイの学生はネイティブでないとはいえ、医学の知識は英語で入っています。英会話力だけでなく医学英語をしっかり練習し、専門知識を英語で聞いてわかる程度にはしておいたほうが良いと思います。実際とても頻回に患者さんの容体説明をされ、そこでは専門用語以外にも、いろんな種類の「痛み」や「だるさ」のような一般的な言葉も入ってきます。私は医学英語や臨床英語の講義で使うテキストなどを見直し練習していきました。実際は慣れない医学英語に加え、タイ独特のなまりがあるので慣れるまでしばらくかかりました。彼らは自分の英語が通じていると信じてしゃべり続けるので、粘り強く聞き返すことも大切だと思いました。

(ウ) もっていくと便利なもの

電子辞書：最も活用しました。常にケーシーのポケットに忍ばせて判らないことは即座に調べるという連続でした。

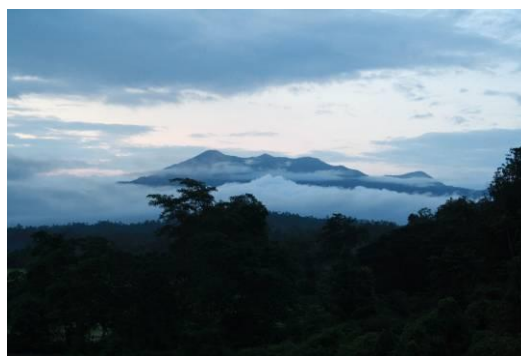
NOTE PC：寮には無線LANもありインターネットによる情報収集、レポート作製など使用頻度はとても多いです。レビューブック：ポケットに入るサイズなので便利です。

メモ帳：その日あったことは大雑把にでも手帳に書きとめておくと記憶を呼び覚ますのに役立ちます。

ペンライト：神経内科でより多く患者さんを見せてもらうためには自分の道具としてペンライトは持っていたほうがスムーズだと思いました。(今回持って行かず少し不便を感じました。)



旧市街地を囲む城壁跡



国立公園の朝

林 千晴

(ア) チェンマイ大学研修の特徴

自分のしたいことを先方に伝えれば、様々な体験をさせてもらえる。

現地の学生との交流、タイの文化を身近で体験できる。

英語でのコミュニケーション能力の向上が期待できる。

医学、語学共に研修前後に渡って学習意欲が亢進する。

タイは親日的で国民性はとても皆親切である。

費用は奨学金でほとんど賄える、他の研修地よりも物価も安い。

長期休暇利用のため、休学などをしなくて済む。

宿泊場所も校内の学生寮のため安心。

(イ) 注意事項

女性は病院でスカートが原則。履かないと不審がられる。学生はそれに白衣着用。
研修中は予習復習が欠かせない。
体調には気をつける。

7. その他

今回、このように大変貴重な経験をさせていただき大変有難うございました。大学単位で他国の大学と交流を進めている大学はめずらしく、香川大学で学んでいることを改めて幸せに感じています。今回の留学を通じて、英語を通じて医学の知識を深めることがいかに世界を広げるかということを改めて感じることができました。また日本だけでなく世界の文化や常識と触れることで発想の幅が大きく膨らむことも感じました。この経験を糧により幅の広い視野を持つ医療人となれるよう努力したいと思います。



認定書授与式（ニウエ医学部長らと）